

鎧や兜などからなる武具・甲冑。その修復・復元を手がけるのが甲冑師だ。鍛造、彫金、漆工、皮革加工、染織、組紐など多様な技術が求められ、文化財の甲冑修理を手がけられる認定を受けた甲冑師は現在日本に二人だけ。その一人、昨年旭日双光章を受章した西岡文夫さんにお話を伺った。

ふるさと横浜に暮らす

生まれは佐賀ですが、4歳の時に家族で横浜に越してきて、22歳まで暮らしました。みなとみらいは、まだ影も形もない時代でしたが、元町や中華街に遊びに行ったのは良い思い出です。結婚してしばらく横浜を離れましたが、23年前、横浜に戻ってきました。

横浜で甲冑を見られるところは、馬車道にある神奈川県立歴史博物館。時々展示替えもあるようですが、基本的に常設展示されていると思います。そのほかに、根岸競馬記念公苑にある馬の博物館です。残念ながら今は両館とも休館中なのですが。

子どものころから日本刀や鎧、神社やお寺が好きで、博物館や寺社によく足を運んだものです。甲冑のプラモデルも作りましたよ。そのころはまさか甲冑師になるとは思ってもみませんでしたけれど。

道は後からできる

学校を卒業してまず就いた仕事はグラフィックデザイナー。芸能界ともお付き合いのある華やかな世界でしたが、どうしても肌に合わず、将来のビジョンが描けない。そんな時、甲冑の製作や修復を手がける「甲冑師」という職業があることを知り、「やってみよう」という気持ちがむくむくと湧いてきて。結婚してましたので妻に打ち明けると妻はただ啞然としていました。25歳の時でした。

やるからには一生の仕事にしようという覚悟ではありましたが、国から認定を受けたり、ましてや勲章をいただくとは、当時は夢にも思いませんでした。妻と二人、地道に生活できればいいなというくらいの気持ちでしたから。初めは個人収集家からの依頼が主でしたが、コツコツ続けるうちに、少しずつ仕事が増えていき、博物館などからも依頼を受けるようになりました。それでも一人前になるのに20年はかかる世界。それまで支えてくれた

妻には本当に感謝しています。

歴史の復元と新作製作

甲冑師の仕事は大きく分けて二つ、文化財など歴史ある甲冑の修復と、復元・模造製作(新作)。両者はかなり性格の異なる仕事です。修復については、オリジナルの部分はどこなのか、これまでにどんな修理がなされてきたのかを見極めます。江戸時代の物は文献が残っている場合もありますが、それ以前の物は現物だけをもとに再現しなければなりません。ですから手作業だけでなく、研究や考証も重要な仕事です。時には研究機関に分析を依頼することもあります。また修復の場合、パーツを全て分解して作業するわけですが、例えば鉄や革でできた5~7cm大の「小札」という板だけでも、ざっと2,000枚。特に戦のない江戸時代は、大名家が威信をかけ、甲冑に豪華絢爛で精緻な装飾を施したので、その部位数は無限とも言われています。最終的に元通りにしなければならぬので、扱う前に必ず写真を撮って記録します。

模造品の新作製作も時間や費用を費やす作業です。甲冑師になった時、新作を作ることを目指していたのですが、一点作るのに何千万という費用を要しますから、あくまでも依頼がなければできません。直近では、静岡県歴史博物館の展示品として、徳川家康の甲冑を4年の歳月を費やして製作しました。

海外からの熱い視線

40年ほど前になりますが、ニューヨークで兜の展覧会があり、文化庁の方に同行したこともありました。今、私が副会長を務める日本甲冑武具研究保存会には海外支部もあり、会員の3分の1は海外の方です。理事にはフランス、ドイツ、イタリアの方々も名を連ねます。海外にもコレクターの方がいらっしゃいますし、研究もよくされています。個人で甲冑



甲冑師
西岡 文夫さん
Nishioka Fumio

1953年生まれ、横浜市在住。グラフィックデザイナーを経て、25歳で甲冑師になる。甲冑師・森田朝二郎氏に師事。全国の博物館、寺社所蔵品、個人収集家の依頼を受け甲冑の修復と復元模造製作を行う。御嶽神社蔵赤糸威鎧(国宝)の復元模造製作など代表作多数。また各地で講演を行い、甲冑の魅力を発信する。2022年3人目となる「甲冑修理」に関する選定保存技術保持者に認定される。25年「旭日双光章」を受章。公益社団法人日本甲冑武具研究保存会副会長。

の博物館を開いている方もいらっしゃるんです。海外からも注目されている日本の甲冑。その素晴らしさが日本国内でも評価され、大切に保存されることを望みます。

技術を未来へつなぐ

日本に現存する甲冑のうち、歴史的な価値が高く美術工芸品として優れ、平安時代後期に作られた三領の大鎧を日本三大大鎧といえます。人によって意見が分かれるところですが、私の考える日本三大大鎧は、青梅市の御岳山山上に鎮座する武蔵御嶽神社に伝わる畠山重忠奉納「赤糸威鎧」、宮島・厳島神社の源為朝奉納「小桜韋黄返威鎧」、山梨の菅田天神社にある武田家に家宝として伝わった「小桜韋威鎧(楯無の鎧)」の三領は当

時の工芸技術の粋を集めたもので、いずれも国宝です。中でも私の憧れはなんといっても御嶽神社にある重忠の赤糸威。若いころ、「この先長く生きられない」となったら、山を駆け上がり鎧を着てみたいと思ったものです(笑)。後に模造製作も手がけました。重忠が命を落とした地も横浜。これも何かの縁かもしれません。甲冑は用語も難しく、馴染みのない方もいらっしゃるかもしれませんが、ご覧になる際は、ぜひ、当時これを身に付けていた人がいたことに思いを馳せてみてください。

夢は、国宝級の大鎧の修復にもう一度携わること、また、新作として、平安時代の大鎧をもう一度作ることです。そして将来は、日々研鑽を積んでいる私の弟子たちが後を継いでくれることを願ってやみません。

初心者対象 手結びのきもの着付教室

通常全 8 回 12,000 円 (1 回 1,500 円 × 8 回) → 受講料 0 円

◆カリキュラム◆

ゆかたの着方と半幅帯、普段着の着方、名古屋帯のお太鼓結び、フォーマルの着方、袋帯の二重太鼓結び(全て手結びで行います)
※着物、長襦袢、帯の貸し出し有り(全8回3,500円)

◆開講要項◆

期間/週1回の2ヶ月(応募者には開講日の1週間前に受講券を送付)
定員/各時間5名
受講料/無料 ※但し教材費として期間中6,900円(税込)必要

教室	2月生		3月生		4月生		時間	会場
	コース	開講日	コース	開講日	コース	開講日		
横浜	木曜	2/19	水曜	3/18	月曜	4/13	A・B・C	横浜駅西口 歩4分
銀座	水曜	2/18	木曜	3/19	金曜	4/17	A・B・C	有楽町駅銀座口 歩5分
新宿	火曜	2/17	金曜	3/27	木曜	4/16	A・B・C	新宿駅西口 歩5分
池袋	月曜	2/16	木曜	3/19	金曜	4/17	A・B・C	池袋駅西口 歩4分

A(10:30~12:00)/B(14:00~15:30)/C(19:00~20:30)

彩きもの学院
お申し込みは「ヨコハマよみうり」係へ

<https://www.saikimonogakuin.co.jp/>
0120-073005

